

## 第5回 東名遺跡整備指導委員会 次第

■日時：令和6年11月12日（火）

14時00分～16時00分

■場所：佐賀市立勸興公民館大会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 委員長あいさつ

4. 議事

**【報告事項】**

（1）第4回委員会での主な意見とその対応について

（2）今後のスケジュールについて

**【協議事項】**

（1）東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター建築実施設計について

（2）東名遺跡屋内展示実施設計について

（3）その他

5. 閉会

## 東名遺跡整備指導委員会設置要綱

(設置目的)

第1条 東名遺跡のもつ本質的価値を保存・継承していくために必要な整備事業を円滑に進めるため、東名遺跡整備指導委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について、協議・検討を行うものとする。

- (1) 東名遺跡の展示整備及び活用に関すること
- (2) その他整備事業を進める上で必要となる事項

(組織)

第3条 委員会は、委員8名以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、東名遺跡整備事業が完了するまでとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1名を置き、委員の互選により選任する。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

- 2 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、地域振興部文化財課において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、令和4年7月14日から施行する。

## 東名遺跡整備指導委員会 名簿

| 区分     | 氏名     | 所属                    | 役職     | 専門      | 出席 | 随行等                |
|--------|--------|-----------------------|--------|---------|----|--------------------|
| 委員     | 中 眞    | 奈良文化財研究所              | 所長     | 造園学     | ○  | —                  |
| 委員     | 小畑 弘己  | 熊本大学 大学院人文社会科学部       | 教授     | 考古学     | ○  | —                  |
| 委員     | 金原 正明  | 元奈良教育大学               | 元教授    | 古環境復元   | ○  | —                  |
| 委員     | 赤司 善彦  | 大野城心のふるさと館            | 館長     | 展示普及    | ○  | —                  |
| 委員     | 三島 伸雄  | 佐賀大学 理工学部             | 教授/副学長 | 景観      | ○  | —                  |
| 委員     | 重藤 輝行  | 佐賀大学 芸術地域デザイン学部       | 教授     | 考古学     | ○  | —                  |
| 委員     | 有岡 大介  | 有岡合同会社                | 代表     | 活用      | ○  | —                  |
| 委員     | 谷 政司   | 株式会社JTB               | 支店長    | 観光      | ○  | —                  |
| 助言者    | —      | 文化庁文化資源活用課            | —      | 国史跡整備部門 | ×  | —                  |
| 助言者    | 渋谷 格   | 佐賀県文化・観光局文化課文化財保護・活用室 | 係長     | 県文化財担当  | ○  | —                  |
| オブザーバー | 堤 圭介   | 国土交通省九州地方整備局佐賀河川事務所   | 建設専門官  | 調整池管理者  | ○  | —                  |
| 関係機関   | 川島 健二  | 佐賀県佐賀土木事務所            | 副所長    | 県道関係    | ○  | 主任主査・野田 充          |
| 地元関係団体 | 江島 徳太郎 | NPO法人 東名縄文の会          | 理事長    | 地元      | ○  | 事務局長・藤原千房          |
| 庁内関係部署 | 古賀 俊誠  | 佐賀市建設部建築住宅課           | 副課長    | 建築担当    | ○  | 主査・藤井佳代<br>主任・吉岡慶太 |
| 庁内関係部署 | 北村 勉   | 佐賀市建設部道路整備課           | 主査     | 土木担当    | ○  | —                  |
| 庁内関係部署 | 野田 龍太郎 | 佐賀市建設部河川砂防課           | 技師     | 調整池管理担当 | ○  | —                  |
| 庁内関係部署 | 溝上 徹也  | 佐賀市経済部観光振興課           | 課長     | 観光担当    | ○  | —                  |
| 事務局    |        | 佐賀市地域振興部文化財課          |        | —       | ○  | —                  |

第4回東名遺跡整備指導委員会 主な意見と対応方針

| 項目     | 主な意見 |   | 事務局の回答等                        | 対応等  |
|--------|------|---|--------------------------------|--|
| コンセプト等 | 1    | <p>どういう趣旨の基にどういうことをやっていこうとしているのか、市民の支持をもらう必要がある。情報公開は非常に重要で、できるだけ早い段階で公開すべきだと思う。</p>                        | -                              | <p>・「縄文のくらしや文化に触れ、これからのくらしに活かす、見直す」というライフスタイルをテーマとする考え方は同じだが、実施設計において、基本設計の段階から変更点が生じ、それに伴い運営の方向性も多少変化している状況である。</p> |
|        | 2    | <p>具体的な設計を進める前に、具体的なコンセプトを考えた方が良くと思う。市民に公表する時に、「こういう施設ですよ」と説明をするワードやコンセプトができていないといけないと思う。</p>               | -                              | <p>・コンセプトやワードについては、これまでに基本的な考え方を基にした素材出しを行っているが、まとめきれていない状況である。</p>  |
|        | 3    | <p>市民に公開するタイミングまでにはコンセプトができていた方が良さだろう。委員会で合意形成した後、対外的なコンセプトペーパーを公開するということになるのか。</p>                         | <p>委員会に提案した上で、公表した方が良くと思う。</p> | <p>・出し合った素材を取りまとめ、佐賀市情報発信強化アドバイザー等に相談しながらコンセプトを言葉にまとめ、次回の委員会までにはお示ししたいと考えている。</p>                                    |
|        | 4    | <p>委員会で協議したことを検証するような場が市民との接点の機会になる。そういう形で連動性を持つことができれば、委員会も議論が進むのではないか。</p>                                | -                              | <p>実施設計が進み施設の設えも具体的になってきているので、委員会の意見を踏まえ、WGやワークショップなどで、運営や活用面を中心に市民と検討する場を設けたい。</p>                                  |
| スケジュール | 5    | <p>タイトなスケジュールで進めているので、どういうタイミングで何を決めておかないと間に合わなくなるのかということがわかるように、もう少し詳細なスケジュールを提示してほしい。</p>                 | -                              | <p>スケジュール参照</p>  |
| 外構計画   | 6    | <p>施設側に歩道がついていないため、交差点付近は、車にとっても人にとっても、見通しが利かないことになる。場合によっては自転車も出てくる可能性があるため、非常に危険だと思う。図示された植栽はこれで大丈夫か。</p> | -                              | <p>植栽計画については、現在具体的に進めているところである。道路沿いはなるべく中高木の植栽は減らしたいと考えている。飛び出しを防ぐような柵等の設置も検討したい。</p>                                |
|        | 7    | <p>縄文体験広場とイベント広場の間に木が立ち過ぎると視界や空間を遮断してしまう。そこはできるだけ低木に抑えて、下地もできるだけ親和性があるようにつくると良いと思う。</p>                     | -                              | <p>体験広場とイベント広場は行き来ができるように設計した。両広場とも芝を貼る予定で、連動して活用できるようにする。</p>   |

| 項目   | 主な意見 |   | 事務局の回答等   | 対応等   |
|------|------|---|---|---|
|      |      |   |   |   |
| 外構計画 | 8    | 観光地に行った時に、箱型の施設はどこが入口なのか分からないことが良くあるので、入口は広く明るく大きく見えるようにした方がスムーズではないかと思う。   | —   | 今後、施設の入口が認識しやすい植栽に配慮した外構設計にしたい。   |
| 多目的室 | 9    | 多目的室の「多目的」とはどういうことを想定しているのか。歴史や縄文に関わらない文化的な行事や、例えば一般企業向けの会議室等で開放することによって、ここに来訪するきっかけづくりになるのではないかと思う。今後、この「多目的」の部分を幅広く検討すれば、来訪の機会も増えるのではないかと思った。           | 体験学習室と兼用になっている。それ以外に講座や講演会、イベント等で大人数を収容する場所として、またコンサートのような歴史にとらわれないイベントも想定している。 | 会議室等については、地域住民の利用も含め、運営の中で具体的に検討していきたい。   |
|      | 10   | 多目的室等は、使っていない時は無駄なスペースになるから、前回の委員会で移動間仕切りにするという話になったと思うが、上半分が固定になった理由は何かあるのか。可能であればオープンにした方が良くと思う。  | フルオープンも不可能ではないので、実施設計で検討したいと思う。   | フルオープンにできるように設計した。ラウンジとの境は引き戸で開閉を容易にし、普段は多目的室とラウンジが一体的に利用できるようにした。  |
| 動線計画 | 11   | 業者さんたちが結構頻繁に来るようになると思うが、物品の動線というのはどのように考えているのか。また倉庫が少な過ぎるが大丈夫か。実際にここで働く人たちがどういうふうに朝から晩まで動いていくかということを休憩場所も含め考えた方が良くと思う。                                    | —   | <ul style="list-style-type: none"> <li>物品動線は整理室北側の通用口を考えている。本館外収蔵庫との資料動線にもなっているので、開口は1600mmを確保している。</li> <li>倉庫は施設北東隅に設置しているが、不足する場合は、一般収蔵庫や本館外収蔵庫の一部も活用する。関係者の休憩場所等、整理室や事務室内で確保できるよう工夫したい。場合によっては、多目的室の活用も考えたい。</li> </ul> |
|      | 12   | エントランスの動線が気になる。閑散としている時はいいが、イベント時や団体客が来ていると大変なことになるので、その混乱を避けるような方法は常に考えていた方が良く。トイレが一番奥にあるので、中には走り込むようにトイレに向かう人がいたりする。そういった人たちと団体客がぶつかったり、大混乱になることが想定される。 | —   | トイレは倉庫と入れ替えることで、ラウンジ側に移動させた。団体客は多目的室をうまく使うなど、運営面で混乱しないように工夫したい。   |

| 項目     | 主な意見 |  | 事務局の回答等  | 対応等  |
|--------|------|--|--|--|
|        |      |  |  |  |
| 展示の考え方 | 13   | ラウンジ、エントランスから常設展示室まで、どのようにワクワク感を持たせながら誘っていくのか、こういう展示を置くというのは分かるが、具体的なイメージができないところがある。  |  | 基本設計の段階から施設全体に関する展示の考え方の変更となっている。大きく「ラウンジエリア」と「展示エリア」の2つのエリアに分け、幅広い属性の来館者が憩い・楽しむことができる施設を目指すこととした。<br>【資料2-1】参照。   |
| 展示室    | 14   | 博物館や資料館に行くと、自分がどの方向に進んでいいのかわからないような混乱が生じる場合がある。提示されている計画は、自由動線でもないし、規制動線でもない、より混乱が生じやすくなっているのではないかと気になった。                                      | -  | <ul style="list-style-type: none"> <li>基本設計の段階から展示室の考え方の変更となっている。</li> <li>まずは展示室前のラウンジ空間が防火区画の取扱いから、ある程度区画された導入エリアとした。</li> <li>企画展示室は独立した空間としていたが、狭い展示空間をより有効に活用するため、常設展示室と一体的にすることで、満足度の高い展示を行うこととした。</li> <li>そのため、常設展示室については、中央にシンボリックな展示を行い、その周囲にその他の展示を行うという考え方は同じだが、トンネル状の長い展示空間はなくなった。基本的に強制動線とした。</li> <li>常設展示室の中で、最初の「何」（「東名遺跡のたから」）が、途中の展示（「編みかご」「食と技」）を経て、最後の「東名遺跡を未来へ」で謎解きできるような工夫もしている。</li> <li>映像については必要最小限とし、導入エリアの「発掘調査の様子」と常設展示室内の「かごづくり」について、作業や製作状況の動画の活用を検討している。</li> </ul> 【資料2-2～2-6】参照。 |
|        | 15   | 展示室の動線について、先ほど意見が出たように規制動線の方が良いと思う。ROOM2を順番に観た後に、ROOM1の中に入るというぐらいで、最初から自由動線とするのは破綻しかねない、やめた方がよいと思う。  | -  |  |
|        | 16   | ここに訪れる方は歴史・考古にさほど造詣がない人も対象者に行っているため、来た人が映像を見て感じた「なぜ」とか「何」とかというところを実際の展示で回収する、ドラマや映画であるようなつくりをするために、導入のところにもう1つ映像があってもいいのではないか。                 | 誘引展示のところで、「なぜ」という説明したが、確かに展示室のどこでそれを回収するのかということ具体的に示していないので、その辺も含めて検討したいと思う。 |  |
|        | 17   | 博物館等について、施設の中の通路の幅に基準等はないのか。かなり長いトンネル状の空間が10m以上続くが、大丈夫なのか。   | 建築基準法的には問題はない。見学していたただかないといけないので、2mぐらいの幅は確保したいと思っている。                        |  |
|        | 18   | 回廊状の展示は非常に珍しい。東名遺跡は遺物も豊富で、見飽きない形の順番に展示ができると思う。非常に斬新な展示構成だと思う。  | -  |  |
|        | 19   | 隙間に小さいモニター等が置いてあるところは、よく故障しているのを見るし、面倒くさいと思ったりもする。一方で、導入部分に分かりやすいものがあると良いと思う。ただ、つくり付けてしまうと更新が難しくなるので、可動式にしたり、プロジェクターを使ったり、分かりやすい映像はあった方がよいと思う。 | -  |  |

| 項目  | 主な意見 |  | 事務局の回答等  | 対応等   |
|-----|------|--|--|---|
| 集客  | 20   | <p>店側からすると、年間の集客がどのくらいになるかにもよるし、その中で飲食をする人がどのくらいいるのかにもよるが、カフェだけを単独で出した場合、委託先を探すのは苦勞すると思う。他の自治体で聞いた話だが、お土産ショップなどと、例えば年間を通じてのイベントや広報業務等を合わせてプロポーザルにしたり、要はうまく出店者側の視点に立たないと難しいと思う。結局委託先が見つからなくて、無償で貸したあげくに、きちんとした運営もされないままというケースになりやすい。</p>  | <p>カフェはショップも合わせてと考えていたが、イベントも含めてというところまではあまり考えていなかったので、どういうやり方が一番いいか、具体的に検討していきたいと思う。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの方に来ていただくために、気軽に立ち寄れるラウンジを設け、展示目的以外でも来たくするようなカフェのほか、未就学児を対象に、縄文にちなんだ遊具で遊びながら縄文のイメージを刷り込む展示としての意味を持たせるキッズコーナーや、主に小中学生を対象に知的探求心を満たす場としての考古ラボを置くことで子育て世代の親子をターゲットに考えている。</li> <li>・さらにオープンに向けて、有効性を検証しながら人が集まるイベントの開発の検討も必要と考える。</li> <li>・調査・研究や展示・收藏に関わる学芸部分については、基本的に直営とし、カフェ・ショップの運営、受付業務、イベントの運営や立案、広報の実施等については、ランニングコストも考慮し、業務委託も視野に入れた上で、具体的に検討していきたい。</li> </ul> |
|     | 21   | <p>文化財を分かりやすく伝えようという意図は分かるが、その前に、まず関心を持ってもらうこと、これが一番大事なことだと思う。集客はとても大事で、イベント等のメニューにしても何にしても真剣に考えないといけない。人はやはりおいしいものを食べたくて、買いたくて、遊びたいという欲求があって、そういうところも含めてよく考えてほしい。具体的な人を想定しながら展示の中身を考えて、誰に何を伝えたいのか、あるいは、子どもでも分かりやすいものをぜひ作り上げていただきたい。</p> | <p>まだ具体的な計画までは至っていないが、確かに行きたいと思わせるような動線でないと厳しいと思うので、今後具体的に検討していきたい。</p>  |   |
| 財源等 | 22   | <p>この整備事業はどのような形で実施するのか。どこかの支援金を受けるということになるのか。まずは全体のプラン案ができて、具体的にプランを決めていく過程でしっかりと調整、協議をしていくという視点が必要だろう。</p>   | <p>大きくは文化庁の史跡整備の補助金と、埋蔵文化財センターの部分については、設備だけにしか充てられないが、文化庁の活用補助金がある。それ以外で、このような整備事業に活用できる財源が限られている中で、防災関係の起債なども含め検討している段階である。</p> | <p>当初から活用を予定している文化庁補助金については、具体的に協議・調整を行っている。その他、整備事業に活用できるような財源について、引き続き調査・検討していく。</p>  |

| 項目          | 主な意見 |   | 事務局の回答等 | 対応等   |
|-------------|------|---|---------|---|
|             |      |   |         |   |
| 現地整備<br>縄文館 | 23   | <p>ガイドンス施設から縄文館に至る動線をいかに魅力的に誘導してくるのかという意見があった。もちろんガイドツアーをして、オーラル・インタープリテーションの観点で、人がエスコートしていくやり方が一番望ましいと思うが、そういうことを使わない人も来るわけだから、誘うような魅力的な空間づくりはとても大事だと思う。委員会でもそういう意見が出ていたように記憶しているが、ここも何らかの修景を実施することで良いか。</p> | —       | <p>ガイドンス施設から調整池内に行く動線上で横断歩道が必要となるが、位置が未確定であるため、早急に警察協議を行い、史跡地までの動線を確定したい。その上でガイドンス施設側については、外構等で現地へ誘導するような仕掛けを検討したい。また調整池内の動線については、現地整備（屋外展示）の中で検討したい。</p> |
|             | 24   | <p>佐賀は水と関わりの深い街だし、クリークや成富兵庫茂安といった治水に関する施設や人物もいるので、ぜひ治水方面にも本腰を入れて、面白いものをしていただければと思う。</p>   | —       | <p>水辺をテーマとしたツーリズムの検討。<br/>石井樋（さが水ものがたり館）、ひょうたん島公園、古賀銀行や佐賀城周辺、三重津海軍所跡、ひがさすまでの周遊ルート等を検討したい。</p>   |

東名遺跡・埋蔵文化財センター整備事業スケジュール(予定)

| 年度   | R6(2024)        |  |  |   | R7(2025) |  |  |   | R8(2026) |  |  |   | R9(2027) |  |  |    | R10(2028) |    |
|------|-----------------|--|--|---|----------|--|--|---|----------|--|--|---|----------|--|--|----|-----------|----|
| 整備事業 | 建築実施設計          |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |    |           |    |
|      | 屋内展示実施設計        |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |    |           |    |
|      | 屋外展示実施設計        |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |    |           |    |
|      | 造成工事            |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |    |           |    |
|      | 建築工事            |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |    |           |    |
|      | 外構(植栽)工事        |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |    |           |    |
|      | 屋内展示制作          |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |    |           |    |
|      | 屋外展示工事          |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |    |           |    |
|      | ワークショップ・体験イベント等 |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |    |           |    |
| 委員会  | 整備指導委員会         |  |  | 5 | 6        |  |  | 7 | 8        |  |  | 9 | 10       |  |  | 11 |           | 12 |
|      | 保存モニタリング委員会     |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |   |          |  |  |    |           |    |

供用開始

※令和9年度に整備工事完了、令和10年度に供用開始予定

【委員会の開催】

東名遺跡整備指導委員会:年2回程度

東名遺跡保存モニタリング委員会:年1回程度

《東名遺跡整備指導委員会検討内容》

第5回:実施設計の確認・検討

第6回:実施設計の最終確認

第7回:屋外展示実施設計の確認・検討

第8回:屋外展示実施設計の最終確認

第9回:建築工事の状況確認

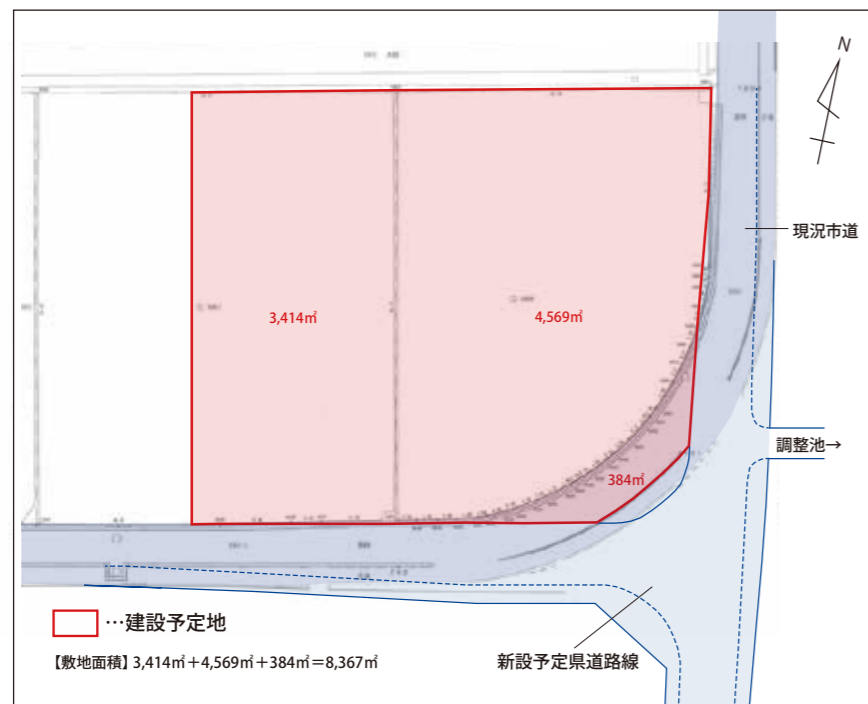
第10回:建築工事の最終確認・屋外展示工事の状況確認

第11回:屋内展示制作の最終確認・屋外展示工事の状況確認

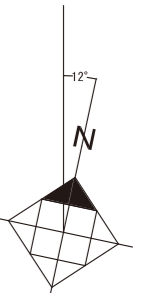
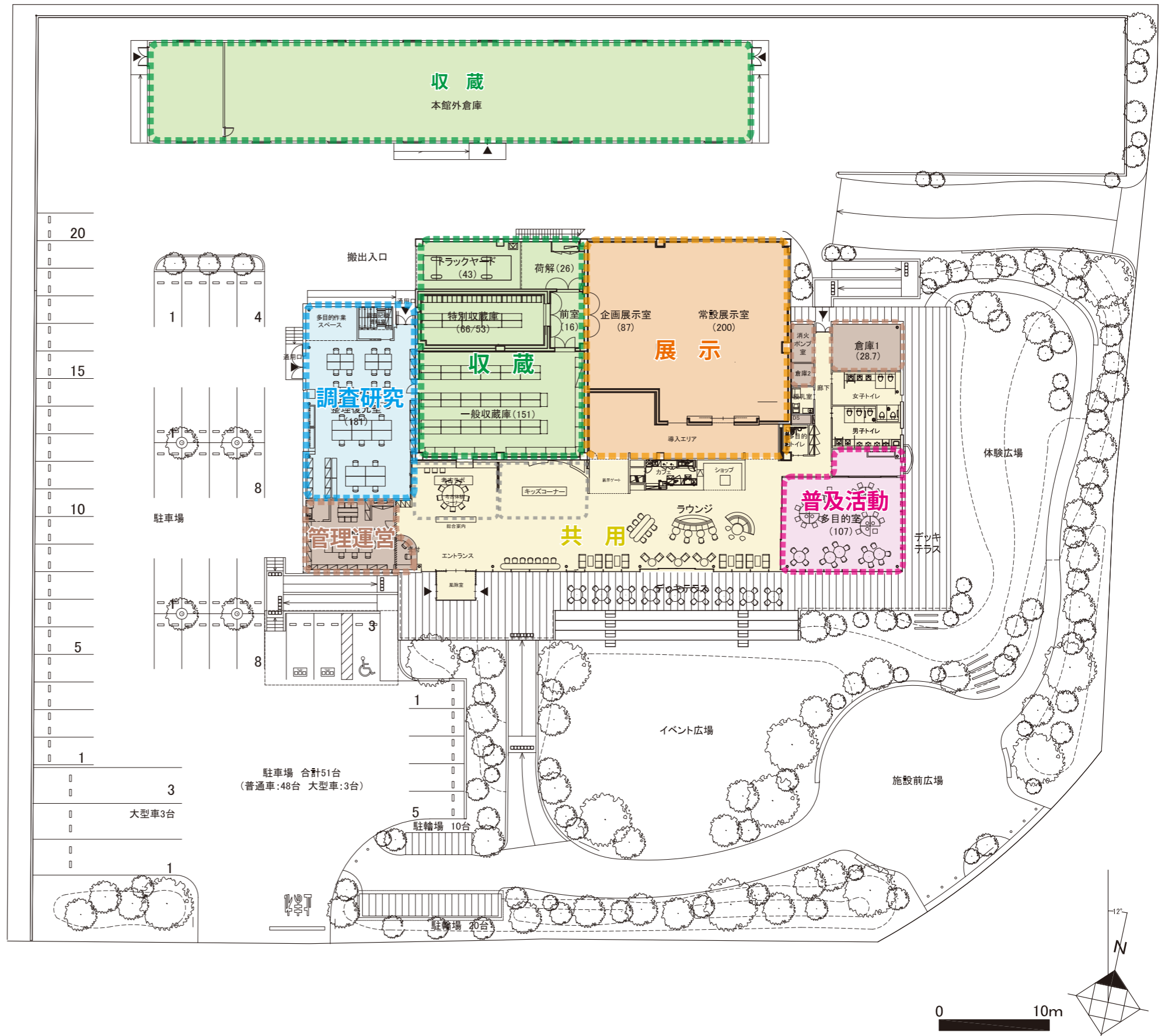
第12回:整備工事の最終確認

諸室の概要と面積

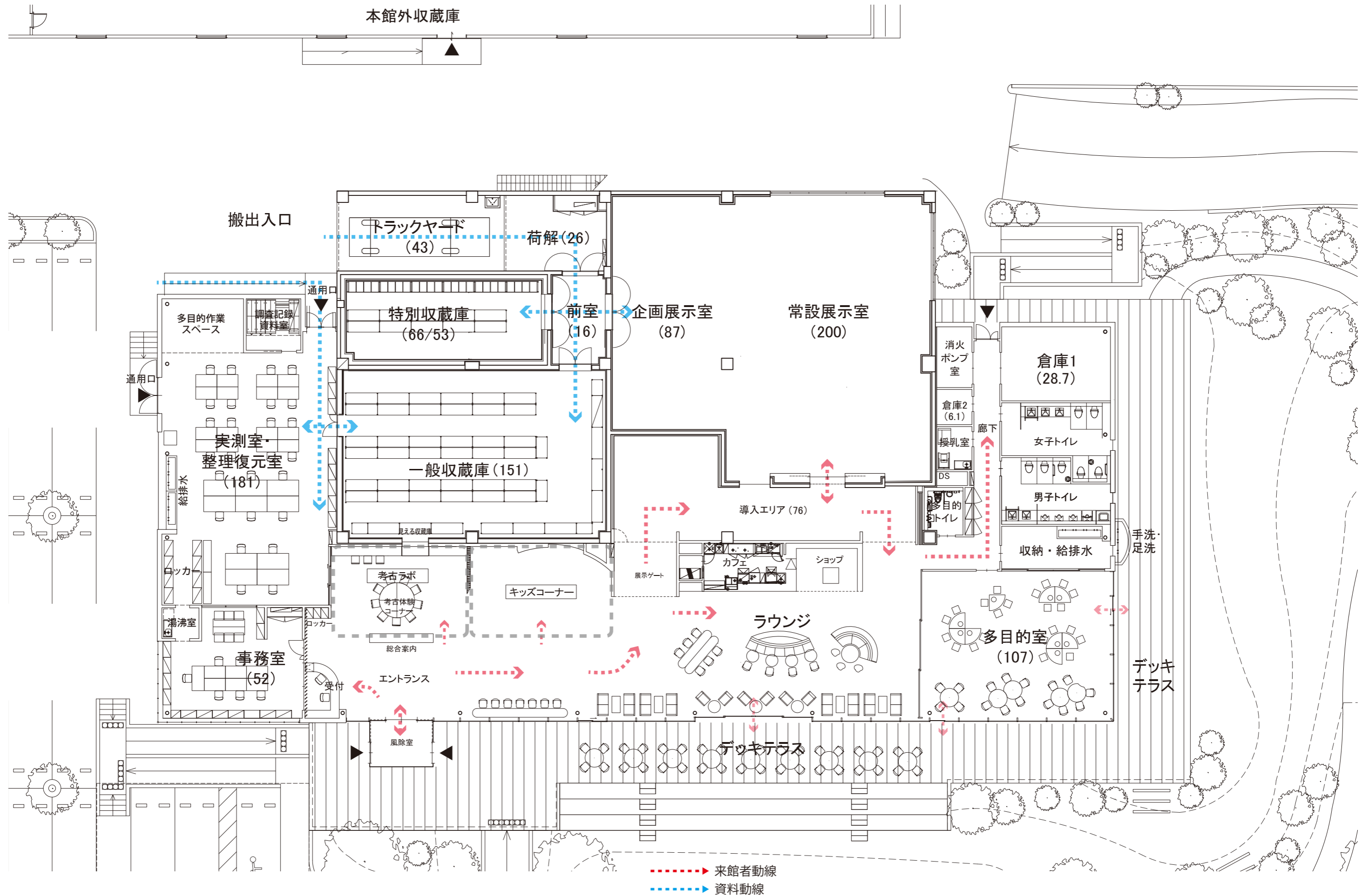
| 本館内                |           |  |     |
|--------------------|-----------|--|-----|
| エリア/諸室名            | 概要        | 床面積 (㎡)  |     |
| 収蔵                 | 一般収蔵庫     | I種資料の中でも重要な遺物の保管を行う。一部収蔵展示。  | 302 |
|                    | 特別収蔵庫     | 重要文化財など温湿度を管理する必要がある資料を収蔵する。   |     |
|                    | 前室        | 収蔵庫への搬出入の際の慣らし(シーズニング)に必要。   |     |
|                    | 荷解室       | 貸借資料や収蔵品等の搬出・搬入を行う際に必要。  |     |
| 調査研究               | 整理室       | 発掘調査で出土した遺物の整理・復元・実測、調査記録の整理、報告書作成作業を行う。                                       | 181 |
|                    | 多目的作業スペース | 特殊遺物処理、写場、外部調査対応等のスペース。  |     |
|                    | 調査記録資料室   | 発掘調査に関わる写真資料を中心に保管する。  |     |
| 展示                 | 常設展示室     | 東名遺跡のガイダンス展示。  | 363 |
|                    | 企画展示室     | 佐賀市が保有する出土品を中心に、テーマ別に展示する。   |     |
|                    | 導入エリア     | 展示室へ誘引するエリア。   |     |
| 普及活動               | 多目的室      | 体験学習や講演会・講座等の多目的な学習や施設に関する様々な活動スペースとして使用。                                      | 107 |
|                    | 収納・給排水    | 体験活動で使用する給排水、道具類の収納スペース。   |     |
| 共用                 | エントランス    | 来館者を迎える空間。団体客の滞留スペース。  | 445 |
|                    | ラウンジ      | 緑豊かな交流・休憩スペース。展示・図書情報・情報発信・ギャラリー・カフェ機能も担う。市内の文化財情報をはじめとした情報発信スペース(ブックコーナー)を含む。 |     |
|                    | 考古ラボ      | 埋蔵文化財の調査に関わる作業を見たり体験ができる。考古学に係る基礎知識を学ぶことができる。                                  |     |
|                    | キッズコーナー   | 縄文をテーマにした子どもの遊びコーナー。   |     |
|                    | カフェショップ   | 来館者への飲食・物販の提供。   |     |
|                    | トイレ等      | 来館者や館内関係者が共同使用する便益施設。  |     |
|                    | 廊下等       | 来館者や館内関係者が共同使用する各部屋への通路。   |     |
| 管理運営               | 事務室       | 施設の管理・運営や来館者への対応、協議・打合せを行う。  | 137 |
|                    | 倉庫        | 什器やイベントに使用する道具等の保管スペース。  |     |
|                    | 機械室等      | 照明や空調など施設の運用に欠かせない設備の管理を行う。  |     |
| <b>本館 延床面積 (㎡)</b> |           | <b>1,535</b>   |     |
| 本館外収蔵庫             | 本館外倉庫     | 延床面積 (㎡)   | 497 |



位置図



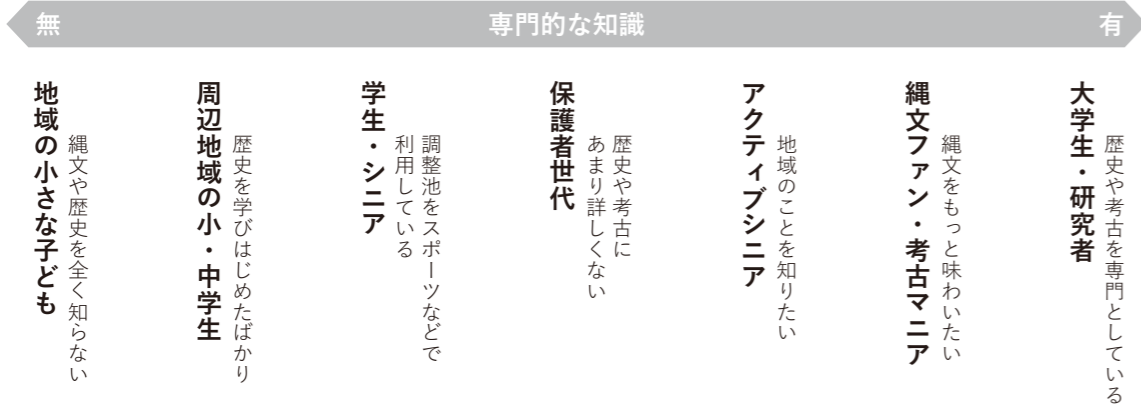
配置図兼1階平面図 S=1:400



各エリアの方針

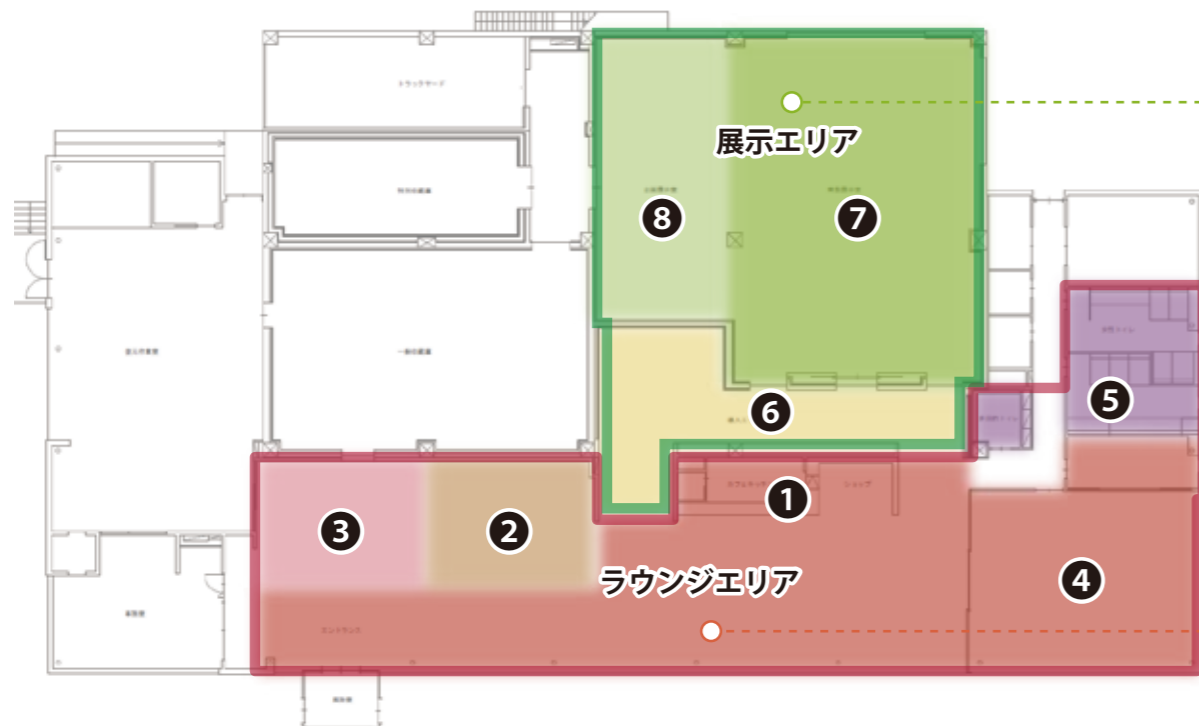
想定される来館者

従来の縄文や地域の歴史の専門的な学習を求める方々だけでなく、さまざまな関心度をもつ地域住民の方々にも利用いただくことを目指す。



施設平面構成

「ラウンジエリア」と「展示エリア」の大きく2つのエリアを設け、幅広い属性の来館者が憩い・楽しむことができる施設を目指す。



展示エリア

東名遺跡について紹介し、佐賀市に貴重な遺跡があることや縄文の暮らしを知っていただくエリア。常設展示室と企画展示室を一体的にすることで、満足度の高い展示を行う。

6

導入展示

- 常設展示へ期待を高めるエリア。
- 縄文や東名遺跡への関心度や知識の度合いに関係なく、考古の世界へ引きこむ展示を展開する。
- ラウンジエリアから展示エリアへ来館者を誘引するため、インパクトのあるヴィジュアルで来館者の目をひく。

7

常設展示

- 東名遺跡の貴重な出土資料を安全に保管しながら展示するエリア。
- 専門的な知識がない方も、資料の貴重性や東名遺跡の特徴や縄文の暮らしが感じられる展示を展開する。

8

企画展示

- 収蔵資料を中心に期間ごとに入れ替えながら展示するエリア。
- 年4回程度展示替えを行い、内1回は重要遺物等を借用展示する特別展を開催予定。
- 東名遺跡に関連づけたテーマ設定により、常設展示と合わせて佐賀の歴史に関する知識を深めていただく。

ラウンジエリア

地域住民を中心に幅広い層の方々気軽に立ち寄り、ゆっくりと過ごす中で歴史にふれることができるエリア。縄文や歴史・考古にまつわる体験やイベントの開催も。

1

カフェ・ショップ

- 地域住民を中心に、幅広い層の方々気軽に立ち寄り、ゆっくりと過ごすことができるエリア。
- テーブルを活用した小展示、縄文に絡めたメニュー等、歴史に興味のない人も、歴史に触れるきっかけを散りばめる。

—主なターゲット—  
歴史に興味がない人

2

キッズコーナー

- 縄文をモチーフにした遊具で、遊びながら縄文に触れるエリア。
- 展示体験は難しい低年齢層の子どもたちが、小さな頃から東名遺跡に触れ合う場とし、次世代の担い手へつなげる。

—主なターゲット—  
未就学児と兄弟・保護者

3

考古ラボ

- 実際に埋蔵文化財の整理作業や観察等を行えるエリア。
- 整理復元室と隣接し、作業スタッフが直々にレクチャー可能。
- 現場に近い本格的な体験により、未来の考古学者を育てる。

—主なターゲット—  
小・中学生と保護者／考古マニア

4

多目的室

- イベント・ワークショップ・講演等ができるエリア。
- 通常時はカフェの座席としての利用も可能。

5

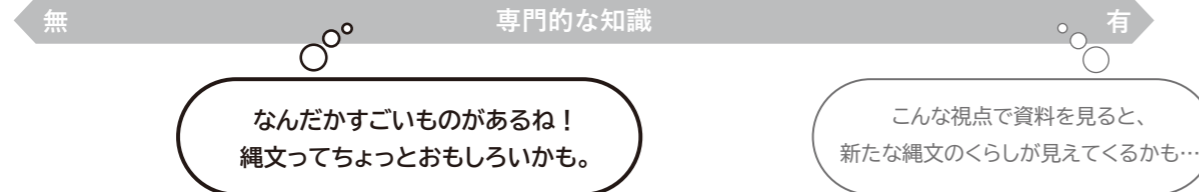
トイレ

- 各トイレに糞石と歴史・考古のトリビア等を展示。
- 発見する楽しさから施設に親しみを感ぜてもらおう。

展示エリアの考え方

展示エリアの主なターゲット

専門的な学習ができる従来型の教育施設としての来館者ではなく、地域に開かれた施設として、縄文に詳しくない方を軸に、マニア・専門家も視野に入れた来館者像とする。

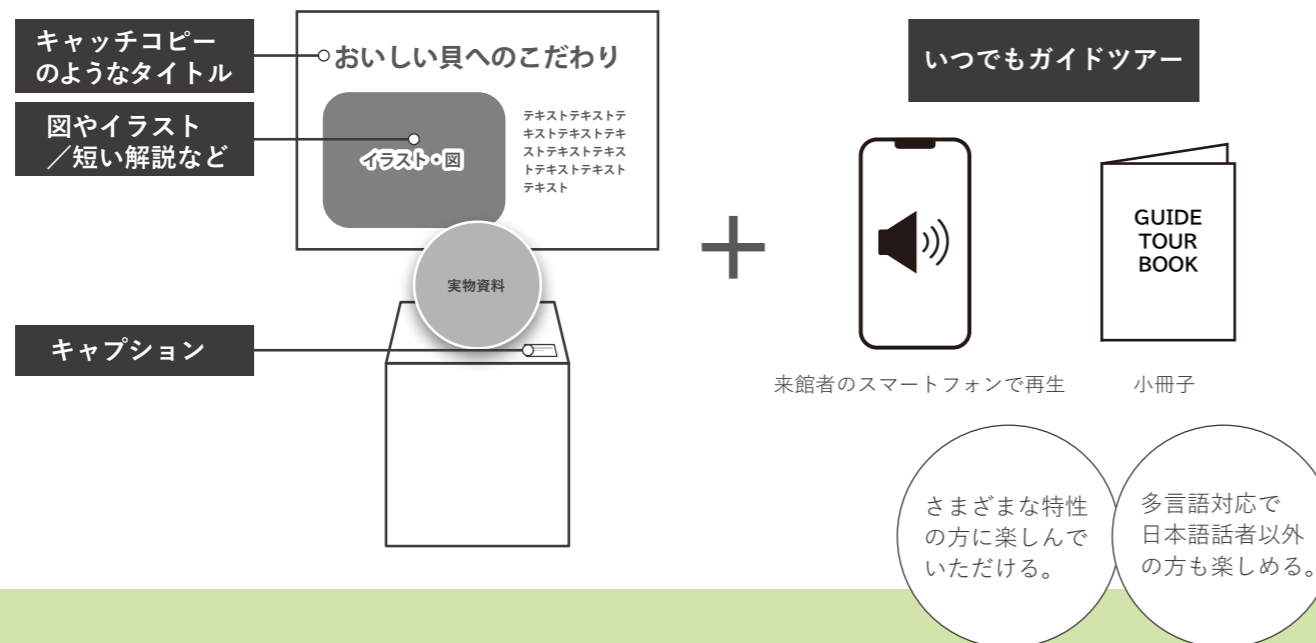


常設展示の目的

- 1 東名遺跡の特徴である「編みかご」「豊かな装飾品」を印象的に伝え、佐賀市にあるたからとして誇りを感じてもらうこと。
- 2 学術的な情報整理ではなく、基礎的な知識がない方でも気軽に楽しめる情報提供で、「もしかして縄文人は今より豊かなくらしをしていたかも？」とイメージをふくらませてもらうこと。

解説の方針

読んでもらいにくい長文の解説を避け、実物資料そのものを見て楽しんでいただける展示を目指すため、解説パネルは短い文章や図による表現とし、解説のメインは音声による語りまたは小冊子とする。これによりガイドスタッフがいないときでも、ガイドツアーに参加したようなリッチな体験の提供を図る。



展示構成

展示構成検討方針

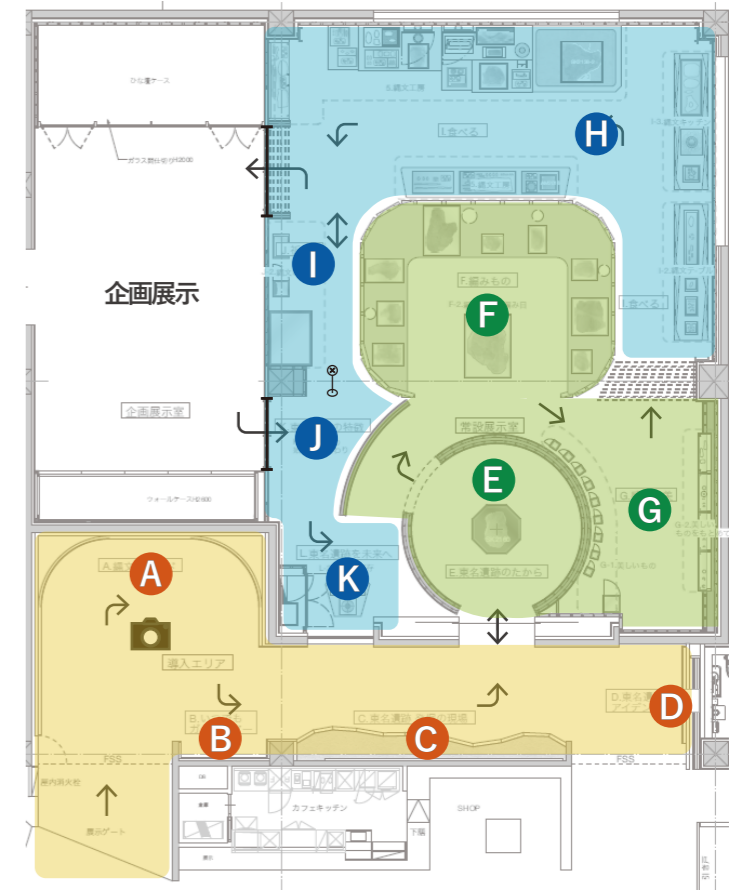
面積的に余裕がある展示室ではないことを考慮し、縄文時代や東名遺跡について総論的に語るのではなく、ポイントを絞って小規模ながらも特徴のある展示を目指す。

ポイント①

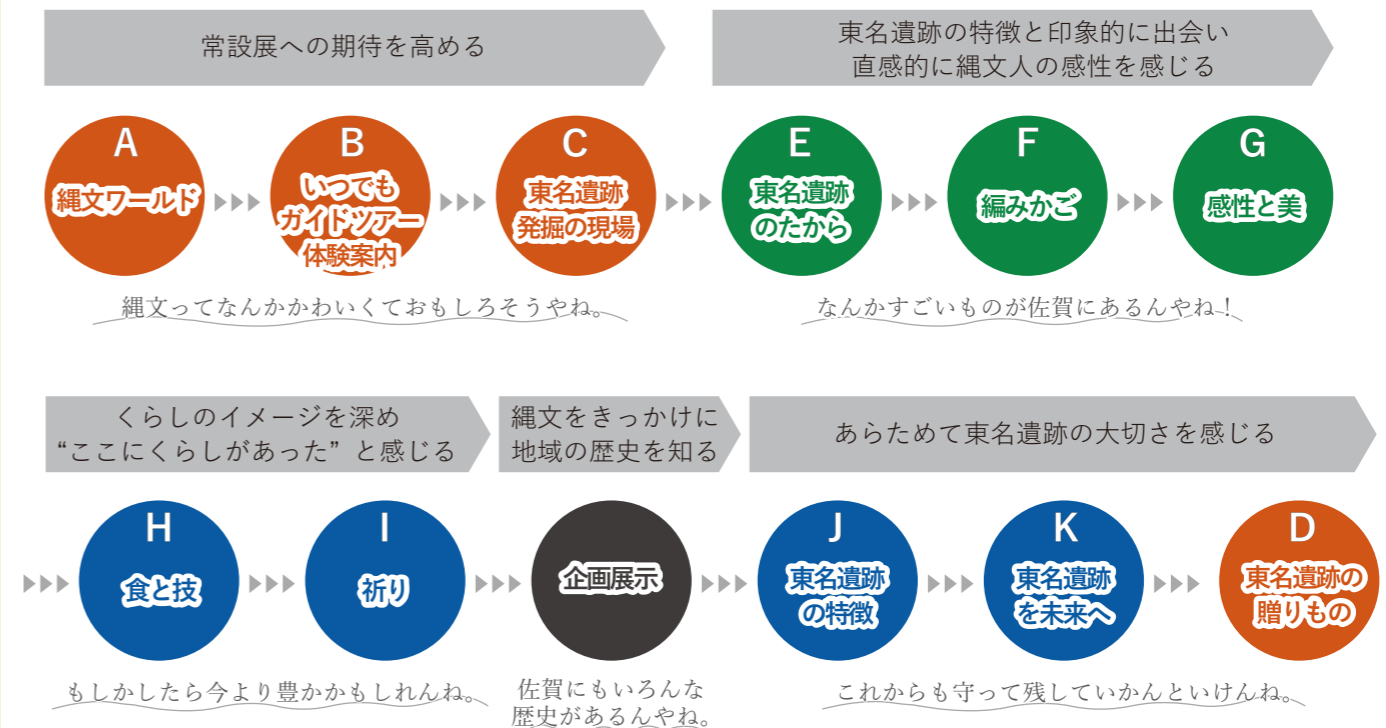
東名遺跡を特徴づける遺物（編みかご・装飾品）の展示

ポイント②

現代人の生活に近い切り口で縄文人のくらしを紹介し、東名遺跡を身近に感じてもらえる展示



体験の流れ



## 2 東名遺跡屋内展示実施設計

### 2 屋内展示 [展示エリア] 方針

2024.11.12

#### 各コーナー展示概要 | 導入展示

#### 常設展示へ期待を高める

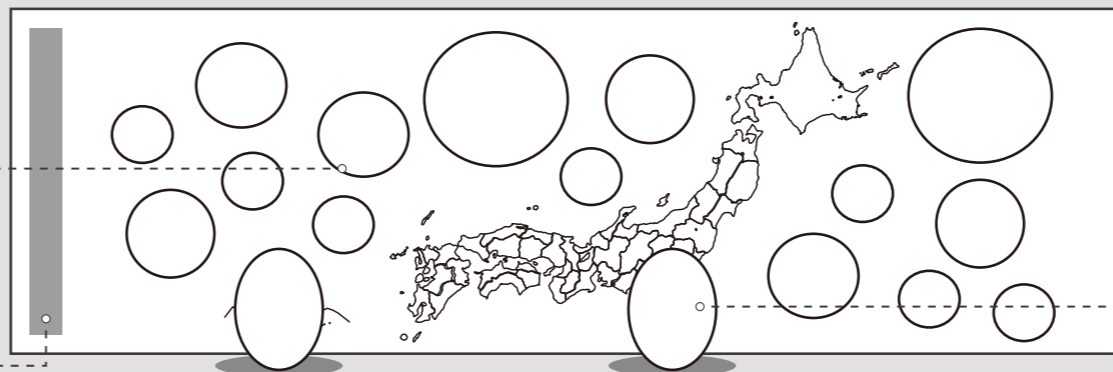


#### A 縄文ワールド

全国の縄文遺物の多様さや世界観をグラフィカルに表現した大壁面展示。インパクトとともに縄文展示への期待を高める。

##### 縄文イメージマップ

日本全国の代表的な縄文の遺物のパネルが並ぶ巨大な壁面。見たことのある遺物や来館者のゆかりのある土地の遺跡を発見することで、縄文時代を身近に感じてもらう。

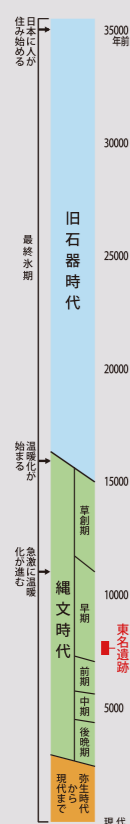


##### 出土品立体パネル

特に有名な遺物等を立体パネルで壁面前に配置。人物と同程度の大きさの造作とすることで、並んで写真を撮りたくなるフォトスポットとしても楽しむことができる。

##### 年表

縄文時代が長く続いた時代であること、東名遺跡は約 8000 年前（早期後葉）であることを示す。



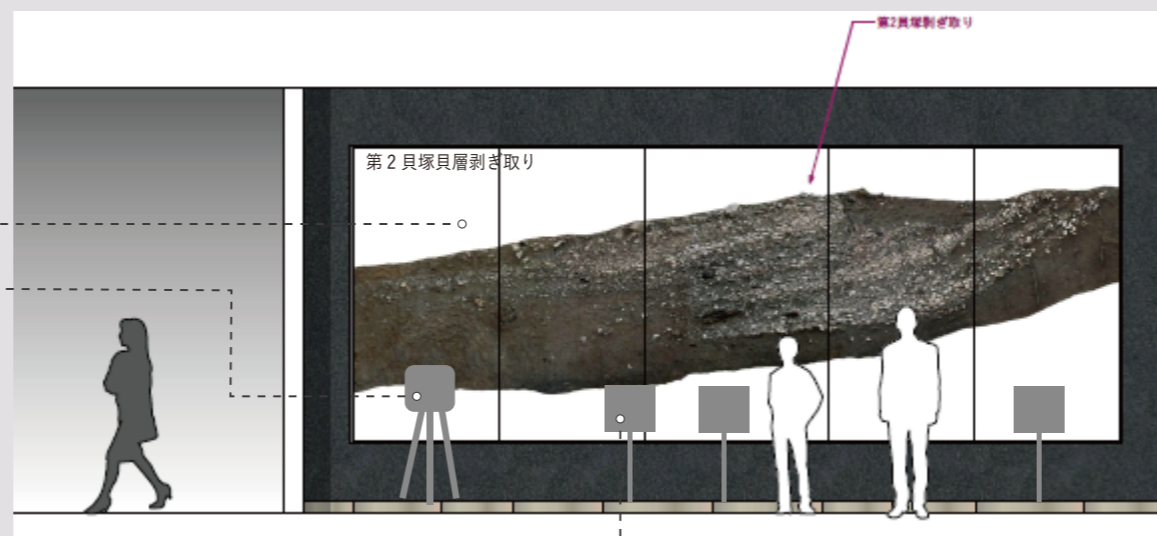
#### C 東名遺跡発掘の現場

壁面の貝塚剥ぎ取りを中心に発掘現場の様子を表し、東名遺跡発掘の感動や迫力を伝える。

##### 第 2 貝塚剥ぎ取り

##### 発掘調査の映像

現場にある一眼レフカメラを模したモニターで発掘の様子を上映し、当時の雰囲気を感じてもらう。



##### 発掘現場の再現

発掘に使用する道具（フルイ、土嚢袋など）を展示し、現場の臨場感を再現する。



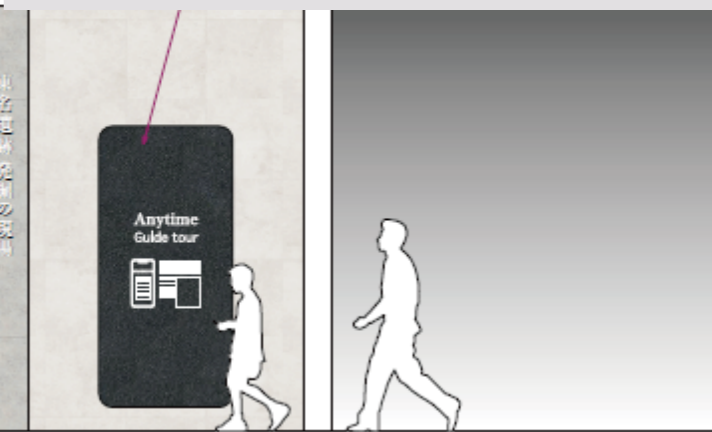
##### 黒板型解説パネル

発掘の経緯や遺跡の特徴を紹介するパネル。現場で使われる黒板を模したパネルと手書き風の文字で発掘現場の世界観に合わせながら解説する。

- パネル 1. 「貝塚剥ぎ取り」について
- パネル 2. 東名遺跡が巨勢川調整池建設の掘削工事中に発見されたこと
- パネル 3. 通常の遺跡では残りにくい動植物性の遺物が大量に出土した理由等

#### B いつでもガイドツアー体験案内

音声ガイドの体験方法・操作方法の案内を行う。



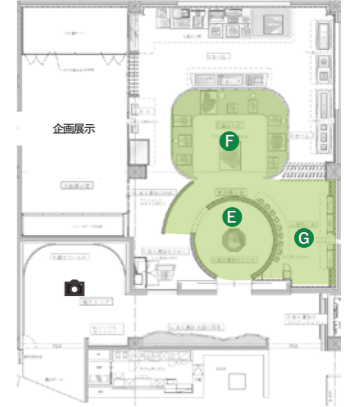
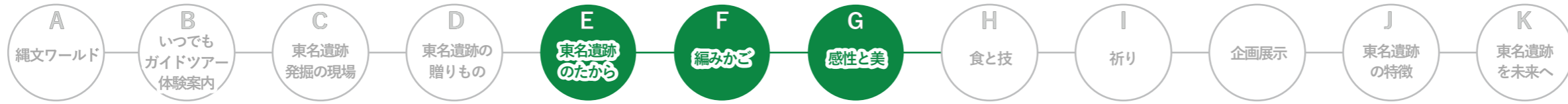
来館者のスマートフォンを活用し、手軽にいつでも参加することができるガイドツアーのような価値ある体験を提供。展示物から目を離さずに解説を聞くことができ、資料を見るポイントを示すことで理解を深める。

#### D 東名遺跡の贈りもの

東名遺跡の個性・特徴をイラスト等で表現し、展示を見る前後に、来館者の感情を掘り下げる一助とする。

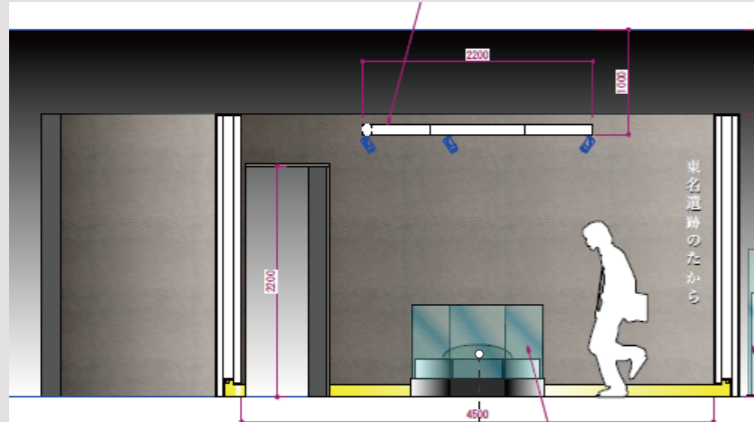
- 【前】展示室に入る人→期待感を感じ、想像を膨らませる。
- 【後】展示を見終わった人→東名遺跡らしさの納得感を得る。

各コーナー展示概要 | 常設展示〈前半〉 東名遺跡の魅力・縄文人の感性を感覚的に味わう



E 東名遺跡のたから

東名遺跡の特徴である「編みかご」を静謐な空間の中央に象徴的に展示し、「東名＝編みかご」のイメージを強く印象づけ、遺跡や編みかごの貴重性を感じてもらおう。



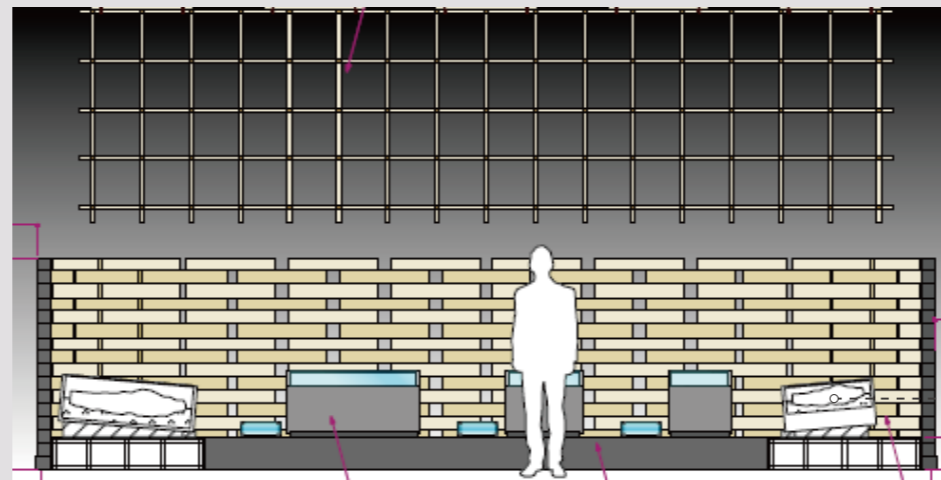
編みかごシンボル展示

解説は行わずキャプションのみを添え、資料への注目を集める。



F 編みかご

東名遺跡の最大の特徴である編みかごを、編み目（編組技法）の切り口で展示。来館者それぞれの視点でその美しさや縄文人の感性に想いを馳せてもらう。



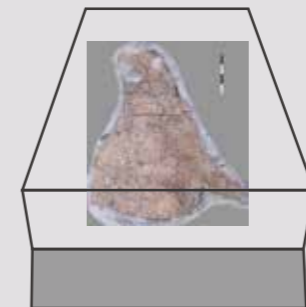
編みかご展示ユニット

コの字型のステージに複数設置



実測図パネル

実測図を実物資料とセットで展示。実物の編み目の見方を補うとともに、実測図そのものの緻密な美しさを見せる。



展示台

実物資料を上からのぞいて鑑賞しやすいよう 10° 程角度をつけた展示台。資料を台座ごと引き出すことができる仕様とし、資料に負担をかけることなく、展示替えに対応できる。

G 感性と美

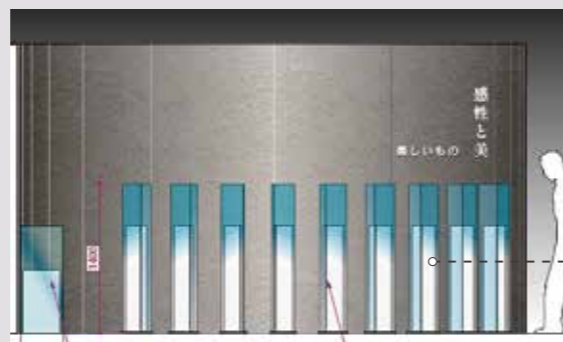
アクセサリーや道具を用途ではなく、美しい造形やデザインの視点で鑑賞してもらい、縄文人の美的センスやこだわりを感じてもらおう。

1 | 美しいもの

貝器・骨角器・土器などのうち、デザインの特徴のある資料を選抜。資料情報は控え、感覚的に資料そのものに集中して美しさを感じてもらおう。



骨角製アクセサリー

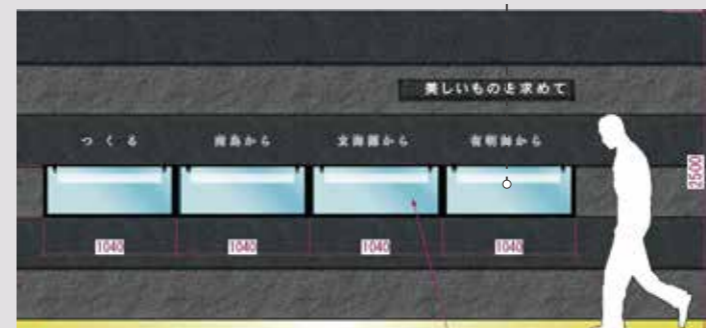


独立ケース展示

重厚感のあるガラスケースに資料を1～数点ずつ展示。上品さ、尊さを感じさせる空間で、資料を魅力的に見せる。

2 | 美しいものをもとめて

貝アクセサリーなどが遠方からもたらされたことや、鹿角製腰飾を盛んに製作していたことなどから、縄文人の幅広い交流やこだわりを感じてもらおう。

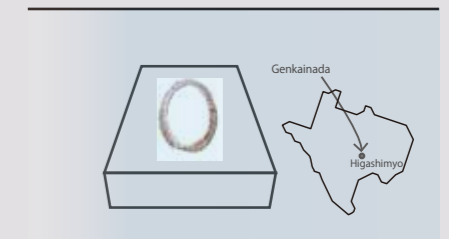


一連ケース展示

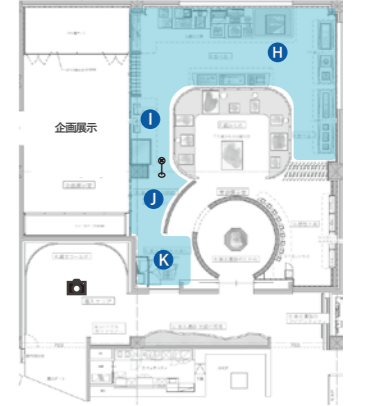
横長一連ケース内に資料に合わせた展示台を設置。産地を示すグラフィックはガラス面に。



貝製アクセサリー



各コーナー展示概要 | 常設展示〈後半〉 縄文人のくらしをイメージし想像をめぐらせる



H 食と技

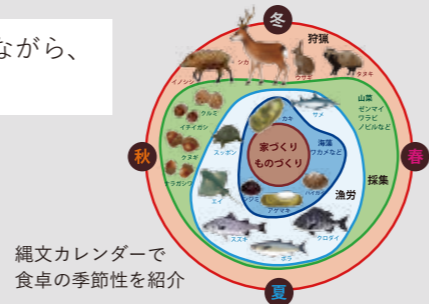
生きるために最も必要な食を軸に、縄文人の生業を紹介。現代のくらしと重ね合わせながら、縄文人の日々の様子やその時の感覚などに想いをめぐらせてもらう。

2 | 縄文のキッチン

縄文人もおいしく食べる工夫をしていた？ 土器や集石炉等と調理方法を紹介。

1 | 日々の食卓

残された貝類や動物骨等から縄文の食事風景をイメージしてもらう。



貝類

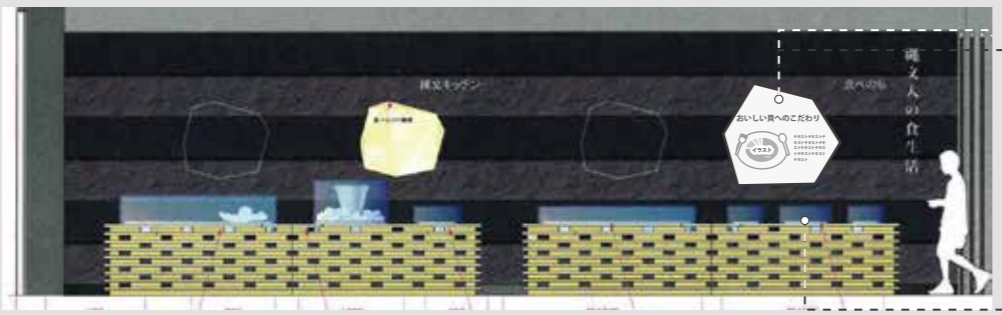


動物骨

縄文カレンダーで食卓の季節性を紹介

基本的な展示手法構成

- ①解説パネル  
キャッチコピー+イラスト+テキストで解説。所々に自然科学分析等コアな情報をコラム的に添える。
- ②テーブル型什器  
テーブル上に資料を設置し、上から透明カバーで保護。
- ③キャプション  
資料の端的な説明と学術的な資料名称を資料の近くに設置。
- ④ミニドール  
展示ケース内の資料の近くに情景を切り取った人形を配置。くらしのイメージを補完する。

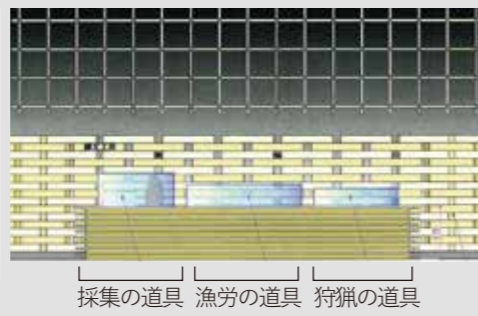


3 | 食料の調達

自然の恵みをいただいていた縄文人。その道具から、縄文人の技術や工夫、豊かな自然環境を想像してもらう。



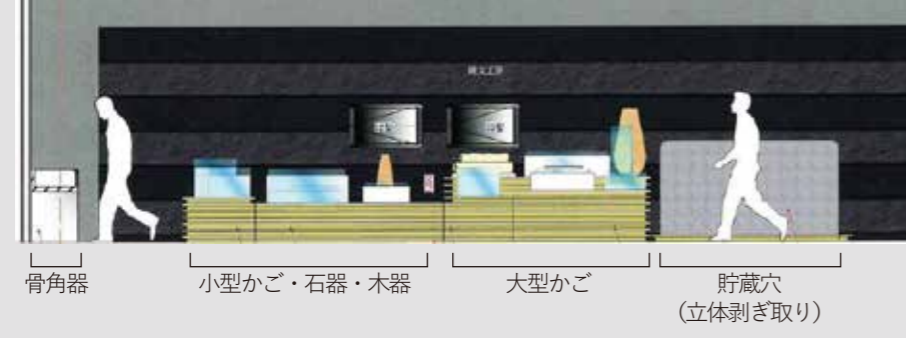
石鏃



採集の道具 漁労の道具 狩猟の道具

4 | 道具の作り方

たくさんの道具を作った縄文人。自然素材を利用する工夫や素材を求めた広域交流とともに、自給自足の丁寧なくらしを想像してもらう。



骨角器 小型かご・石器・木器 大型かご 貯蔵穴 (立体剥ぎ取り)



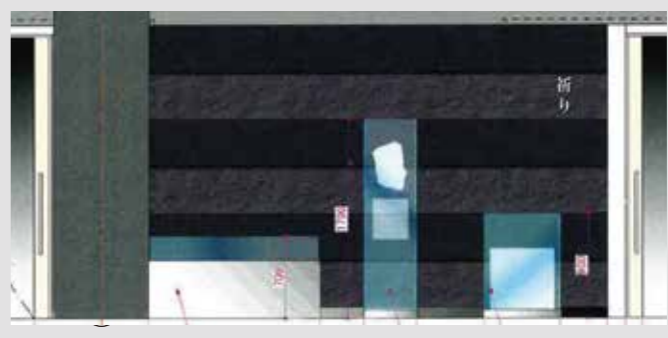
大型かごづくり



小型かごづくり

I 祈り

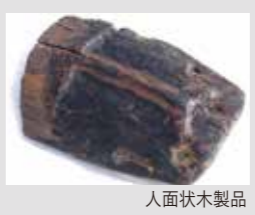
縄文人の精神的な文化を紹介。豊かで成熟した文化を想像しながら、現代を生きる私たちとのつながりを感じてもらおう。



埋葬 祭 儀礼



埋葬人骨



人面状木製品

企画展示開催時は、祈りコーナー突き当りにサインを設置し企画展示へ誘導。展示替え中は祈りコーナーを抜けて出口へ

J 東名遺跡の特徴

集落の始まりと終わりや水辺の周辺環境から東名遺跡をもっと知る。

解説パネル

東名での集落の始まりや縄文海進による終わりを解説。微小貝等からわかる周辺環境等、東名遺跡を深堀する。



微小貝

K 東名遺跡を未来へ

冒頭のシンボル展示の編みかごの復元品を展示。東名遺跡の特徴を読後感として残す。

復元品

編みかごや展示を反芻し、シンボル展示へつなげる。



什器天面解説

遺跡の保存方法や重要性についてメッセージ的に紹介。

各コーナー展示概要 | 企画展示



企画展示の方針

企画展示と常設展示を一体とするねらい

- 来館者にとって、東名遺跡の展示と市内の他遺跡の展示をセットで見ることができる満足感ある体験を提供する。
- 限られた展示スペースの中で、常設展示・企画展示へのそれぞれの動線の交錯を防ぐ。
- 細長い室形状のため、出入口を長手壁側にすることで、展示ケースの配置効率を上げる。
- 企画展示にも貴重資料が展示されるため、常設展示と一体で環境管理をやすくする。

運用方針

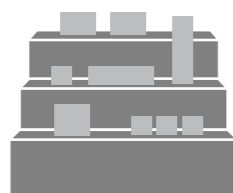
年4回の展示替えを予定。内1回は特別展を想定。展示替えによる閉室期間は1週間程度。



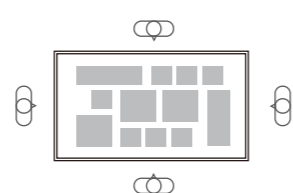
展示ケースの考え方

多様な展示資料に対応できるよう、3種のケースで構成。ケース内には吊りパネル用のレールを設け、展示テーマごとに展示構成を変えられる仕様とする。

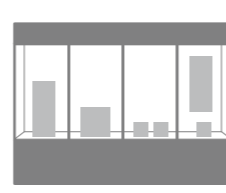
ひなだんケース



4方向ケース



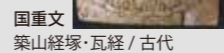
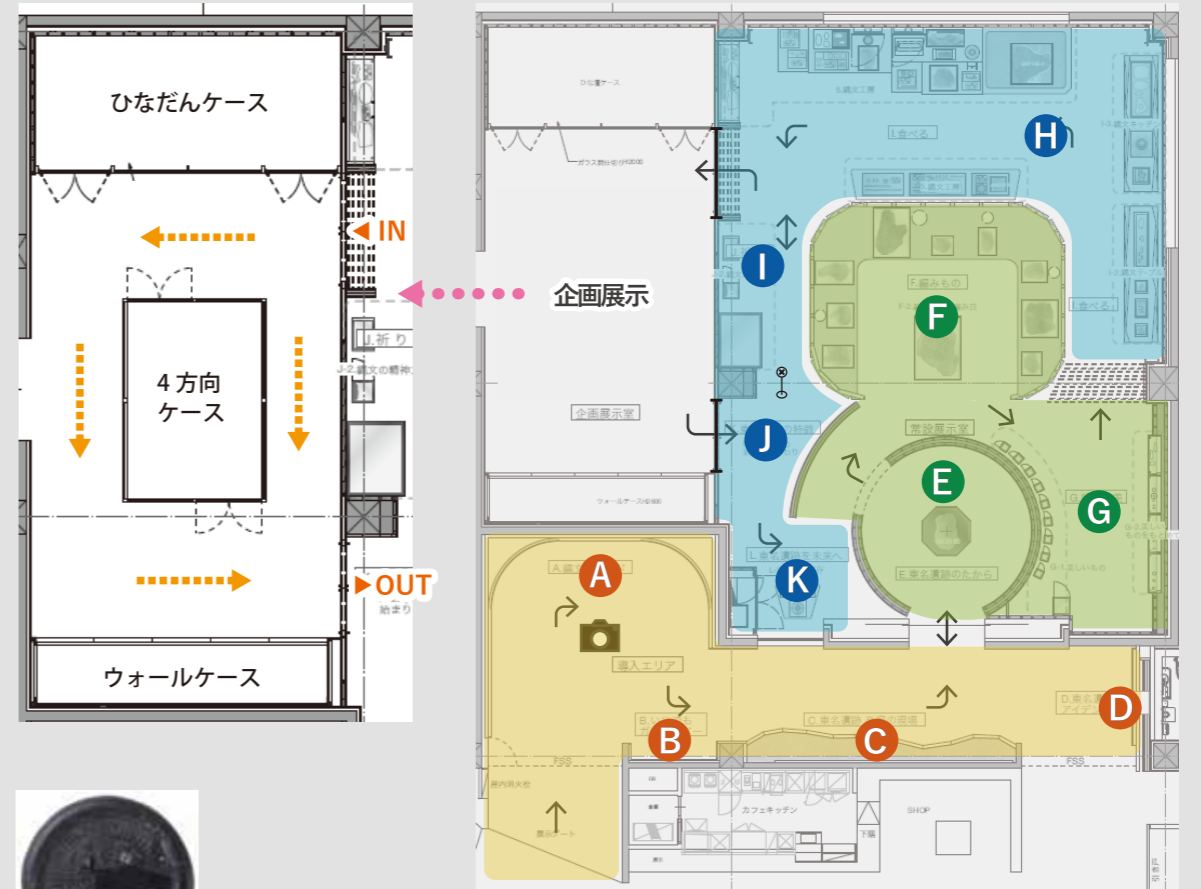
ウォールケース



(重要遺物を展示)

ケースの配置と展示案

●東名遺跡に関連づけたテーマ設定により、佐賀の歴史に関する認識を深めてもらうと同時に、東名遺跡の特徴や重要性を浮き彫りにする。



企画展<年3回程度>  
佐賀市の収蔵品を中心にテーマ別に展示

展示案

- 佐賀市の至宝展 (重要考古遺物)
- 大陸文化の流入と弥生文化
- 肥前国風土記と古代文化 など

特別展<年1回>  
佐賀市の収蔵品と他市から借用した重要遺物等をテーマ別に展示

展示案

- 西の縄文文化と東の縄文文化
- 縄文の土偶 など